



第5回かながわ感動介護大賞

～ありがとうを届けたい～

受賞作品

かながわ感動介護大賞実行委員会



はじめに

介護の仕事に、皆さんどんなイメージをもつでしょうか。

大変な重労働ではないか、覚えなくてはいけないことがたくさんありすぎて大変ではないかなど、マイナスイメージが先に頭をよぎる方もいるかもしれません。

しかし、よく言われることには、仕事である以上、どの仕事でも楽なものはないということと、そして、何よりも介護の仕事には他の仕事ではまず得られない素晴らしさがあることです。

私たちが人生を送る中で最も嬉しい時のひとつに、他人から感謝され、褒められることだと言う人がいます。それが人の成長に一番つながるといふ人もいます。介護の仕事は、他の人との関係で良好なコミュニケーションをとり、感動する瞬間がたくさんあることで、充実感を得て、さらに仕事に誇りをもち、続けていくという人もたくさんいます。

相手が語らなくても積極的に声をかけてコミュニケーションをとり、笑顔を引き出す、介護の現場では、このようなほのぼのとしたエピソードがあふれています。

このかながわ感動介護大賞の冊子には、他人から感謝をされる介護の醍醐味が満載されています。介護現場で何気ない日常風景として流れているこれらのエピソードを通じてあらためて介護の仕事の魅力を見つめていければと願っています。

介護のイメージが変わり、皆さんとともに介護の仕事が笑顔の「介護文化」として定着していただきたいと期待しています。

かながわ感動介護大賞実行委員会委員長 篠原 正治

目次

| | |
|------------------------|--|
| ○受賞作品 | |
| 最優秀賞 | 奇跡の生還と幸運な施設入所 1 |
| 優 秀 賞 | ドーナツで長生きしよう 3 |
| | 百年生きたものには神が宿る 5 |
| | 一緒に歩いて行こう 7 |
| | 深夜の出来事 9 |
| | 最後の誕生会 11 |
| 佳 作 | ひとり暮らしができるよう介護サービスを つなげて下さりありがとう 13 |
| | 父を看取って 14 |
| | 幸せな最期を迎えた父 15 |
| | 入歯紛失 16 |
| | 思いやりの心は太陽と同じ 17 |
| | 或る日の出来事 19 |
| | 介護予防サロンデイ岸谷に入会 20 |
| | 在宅医療がくれた日々 21 |
| | まあ人生こんなもん 23 |
| | 私の宝物 24 |
| | 看取りの介護 25 |
| | ある朝！ 26 |
| | 世代をつなげる大切な仕事 27 |
| | やさしい時間 28 |
| | 一番大切なものは？ 29 |
| | ご家族の思いに応えたい 30 |
| | 「おめでとう」が言いたい 31 |
| ○第5回かながわ感動介護大賞 応募作品の総評 | 33 |
| ○かながわ感動介護大賞表彰選考会委員名簿 | |
| ○かながわ感動介護大賞実行委員会 | |
| ○かながわ感動介護大賞協賛法人 | |

※作品は、応募者の意向を尊重し、ほぼ表現を変更せず掲載しました。

※介護を受けたご本人・ご家族以外からの受賞作品は、ご本人・ご家族からの承諾を得て掲載しています。

最優秀賞

「奇跡の生還と幸運な施設入所」

望月 真理子様

感動介護を行った事業所

特別養護老人ホーム けいあいの郷 緑園

夫は現在67歳、最初に脳神経科を受診して16年、若年性アルツハイマーの診断がついて11年になります。病気がわかった頃は戸惑いもありましたが二人で現実を受け入れ、趣味の教室に通ったり一緒に外出や旅行を楽しんでいました。

2012年に情緒不安定と焦燥感が募りいきなり要介護1から4になりました。色々と薬を試されましたが効果なく殆ど食事も摂れなくなり入院を余儀なくされました。体重も30キロ台に減り胃瘦造設して退院、寝たきりで要介護5に。でもクリームパンをきっかけにどんどん食べられるようになり、半年で胃瘦抜去、歩行もすっかりでき奇跡的に生還しました。しかし脳の萎縮は進み、若く元気で力もあり嫌なことには手も足も出るのですがこの施設も受け入れ困難で短期入所すら受けて貰えませんでした。唯一入院前からお世話になっていたデイサービスで週2回受けてくれましたが在宅での介護に限界を感じていました。今年の3月に近隣の特養から連絡が入り面接がありました。半信半疑でしたが施設のスタッフは少々問題がある人の方がどうやったら本人が落ち着くか考えるのが楽しい、困っている家族の為に我々がいるとも言ってくれま

した。入院中大騒ぎして怒っている姿を何度も見ているので今の施設で穏やかに過ごさせていて、スタッフの笑顔と介護力に感謝でいっぱいの日々です。

▽講評△

はじめて受診してから16年。この長い年月を一生懸命病氣と闘ってきたご夫婦には、数え切れないほどの希望や挫折があったことと思います。そして妻として、大切なご主人の病状に悩み、そして快方を喜ぶ一方、介護の限界を感じた時には出口の見えないつらさもあったのではないのでしょうか。多くのサービス機関に受け入れ困難と判断される中、「困っている家族のために我々がいる」という言葉は、大きな救いだったに違いありません。「どうやったら本人が落ち着くか」を考えることは、病状の変化にあわせてご本人の最善の生活習慣を見出す努力であり、これこそが介護の真髄と言えるかもしれません。制度上の課題は多くとも、在宅介護を後方支援する特別養護老人ホームの存在感は今後ますます大きくなると思われます。

優秀賞

「ドーナツで長生きしよう」

松本 幸子様

感動介護を行った事業所

中井富士白苑 居宅介護支援センター

「幸子、ドーナツはな、メリケン粉と砂糖と膨らし粉があれば作ることが出来るんだよ。」

少し痴呆のある祖母は九十歳。ついさっきの行動も忘れてしまふ。例えば、今が何月何日か。夕食は何を食べたかなど。この会話も私と祖母のあいだで繰り返されているフレーズだ。

きっかけは介護施設のデイサービスの一部「お料理会」だ。スタッフが利用者をサポートして、毎週一回お菓子を作る。ドーナツも作ったと後から知った。

若い頃は台所仕事が好きだった祖母。お料理会がつまらないはずなどない。小麦粉を練る祖母。油で生地を揚げる祖母が容易に想像できる。

「このドーナツは、孫の幸子へのお土産よ。」

と自分のバッグの中に、ビニールで包んだ手作りドーナツを入れようとしたらしい。食中毒の問題もあるので介護施設では食品の持ち込み、持ち出しは出来ない。

ガツカリと肩を落とす祖母。その祖母にスタッフが言った一言が私の胸を絞めつけた。

「あなたが、このドーナツを食べて元気で長生きすることが、お孫さんの一番喜ぶことよ。」

と。私の涙腺はこの話を聞いた時、ゆるみっぱなしだった。

介護施設とは体力も使うしメンタル面のケアも必要だ。何気ない一言が、人を喜ばせることを学んだ。最後に「いつもおばあちゃんのために誠意を尽くしてくれてありがとうございます。」と伝えたい。

▽講評△

お子さんやお孫さんが小さかった頃、ご自分が作ったドーナツを美味しそうに頬張り、喜ぶ姿を思い出されたのでしょうか。

デイサービスや介護施設では、ご利用者の楽しみや残存機能を活かしたアクティビティ、認知症の方に対して回想を促す活動として、おやつ作りを取り入れています。できあがった物を『家族のために持ち帰りたい』と思う気持ちは十分理解していても、衛生面や安全を考え、職員は「持ち帰りはできない」と、一言だけで止めてしまいがちです。

しかし、『……ドーナツを食べて元気で長生きすることが……』と、職員がご本人の気持ちに添い、ご家族やお孫さんとの関係も理解しているからこそできた対応です。筆者であるお孫さんも普段から、ご本人からいろいろなお話を聞いていたからこそ、職員の言葉に感謝と感動があったと思います。

優秀賞

「百年生きたものには神が宿る」

森田 太美子様

感動介護を行った職員

秋谷潮かぜ診療所 西村 京子さん

2016年7月23日に母は103歳の誕生日を迎えます。99歳の時に歩けなくなり、それ以来ベッドが全世界の生活になりましたが、ヘルパーさんやリハビリの先生、訪問入浴や往診の先生など多くの方々のお世話になり今に至っています。往診は近くの潮かぜ診療所の女医さんに隔週でお願いしています。

不思議なことに往診の後には母はとても元気になり、自信に溢れた様子を見せるのです。先生は部屋に入って母を見るなり「お元気そうですね」「お顔の色がとても良いですよ」と母を褒めてくださいます。それから「今日はどんな雑誌を読んでいるのですか」「楽しい記事がありますか」と話しかけます。お腹の底から発している先生の力強い声は、母の眠っている何かを自覚めさせ、先生にしつかりと応えようという気持ち呼び起こすようです。そして、先生と笑顔で話している母の様子は幸せそうです。先生が熊野古道を歩いた時のお話は今でも印象に残っています。「百年生きたものには神が宿る」と先生は言われたのです。百年経つていてもしつかりと生きている木々や小さな神社。その場に佇むと神聖さが感じられ清々しい気持ちになるそうです。百年という時間には不思議な力が宿っていて、それを「百年生きたものには神が宿る」このように言われたのです。この言葉は母の介護に爽やかな風を吹き込んでくれ

ました。百年の意味をじっくりと味わっています。



▽講評△

昭和47年頃、横須賀は一人暮らし老人給食活動の最初の活動展開地域で、そのときのお年寄りの歌は元氣そのもの。「50、60は洩垂れ小僧、70、80は花咲き盛り、90になって迎えが来たら、百まで生きると追い返せ」と。さて今や人生百歳時代の生き方を、筆者はさりげなく代弁して語っておられます。

103歳の母親の段々弱りゆく中でも、命の火をも燃やし続けて行ける営みの日々を医師の言葉に支えられながら、家族も生きる意味を深めて行きます。百年生きたものには不思議な力が宿り、それを「百年生きた者には神が宿る」と医師が経験した象徴的な言葉を借りて表現したのです。胸に深く刻まれる言葉があるのは、周辺の専門職との信頼関係も読み取れる好事例です。

感動介護を行った職員

湘南ケアセンター追浜居宅介護支援事業所

奥原 由美子 さん

家の階段を滑り落ち、背骨を損傷し手術とリハビリで2カ月半の入院生活が終わり、退院後の妻の生活についてアドバイスを受けた。入院前から少しあった認知症、体力低下で、私には介護出来ないと、病院関係者から施設に入れるよう言われ、介護方法、認知症対応、体力低下のサポート等、私には全て未経験で大きな不安とパニック状態であった。

そんな時妻が「家に帰りたい」と言った。そうか家の暮らしがいいのかと連れ帰った夢を見た。

昔を思い返せば若かりし頃、少ない給料で家計をやりくりし、二人の子供を育て、苦勞をかけた妻が弱者となった今、介護を他人任せにできなかった。しかし現実には想像以上の過酷な状態に直面することになった。今は妻の症状を理解出来るようになり、デイサービスから帰った時は脳トレの結果や記憶を呼び戻す質問をし「よく出来た」と言った日は褒めてやり、笑顔で会話をしよう心がけている。

今の状態の基礎はケアマネさんの優しい心のこもった対応と感謝している。妻本人の事についても、転んだ怪我をした等関係部署と密に連絡されて、状態を把握されているのは驚きであった。又私まで気遣っていただけ、心のケアを受け大変心強く私達の生活には無くてはならない存在となっている。外出時は

「手をつないで」と言われ、恥ずかしい思いであったが、今は手をつないで歩いている。共に老い残り少ない人生となったこの先も、手を取り合って一緒に歩いて行こう。



▽講評△

歳を重ねた夫婦が手をつないで歩くことは、気恥ずかしさがある筈です。

老後は「家庭や妻のために」と、思っていた矢先に在宅介護に迫られることもあります。これまでの感謝の恩返しから、私たちも感心するくらい熱心に介護をされる夫とよく出会います。慣れない家事から直接的な介護と、男性介護者ならではの不安や困りごと、悩みも多くあると思います。

そんな時、何でも相談できるケアマネジャーの存在は、頼りの綱だったと思います。介護者である筆者の心が和らぎ、安心できることが、奥様の安心につながり笑顔が表れることとなったのでしょう。夫婦が手をつなぎ、支え合って歩む姿を微笑ましく見守れる世の中にしたいいものです。

「深夜の出来事」

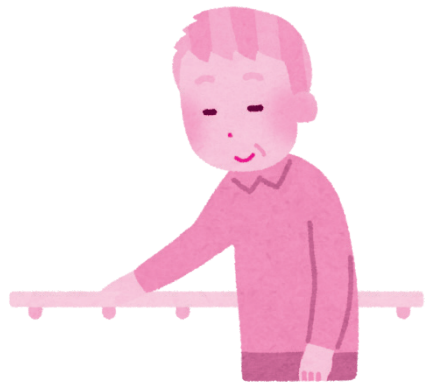
認知症対応型共同生活介護事業所 職員 諸角 由香様

私のその日の勤務は、夜勤でした。深夜1時半ごろ、いつものように次の日の準備をしていると、一人のご利用者がトイレに。その方は、よくトイレに行くのですが、歩行はしっかりしているので、様子をみていました。ところが、少ししてもその方が出てこない。長いなあと思いつつ様子を見に行くことにしました。羞恥心がとても強い方だったので、まずは扉の外から「○さん、大丈夫ですか？」と声をかけると「ちよつと来て。」と呼ばれました。あれ？と思いつつ中に入ると、○様は便失禁をしまっていました。

私は、やつと夜勤になれてきたくらいの時だったので、一瞬でパニックになってしまいました。（他のご利用者の様子もみなきや。あ、誰かがトイレに行った。あーどうしよう）とあせつてばかりでした。そんな私に○様は、「ごめんなさいね。本当にごめんなさいね。」とずっと謝っていました。

部屋までお連れすると○様は、私の手を握り、「こんなこと、あなたみたいな若い人にしてもらって・・・ありがとう。あなたは、ここ一番の人になるわ。ありがとうね。」を言ってくださったのです。私は、てつきり怒られると思っていたので、とても驚きました。その驚きとともに、言葉にできないものがこみあげてきたのを今でも覚えています。○様のその言葉が、私に「これからもこの仕事を続ける。」

という思いをより強くして下さいました。



▽講評△

この作品は、「こんなこと、あなたみたいに若い人にもらって・・・ありがとうね」

という入居者の感謝の言葉によって、介護の仕事をこれからも続けようと元気づけられたということがわかりやすく伝わってくるエピソードです。また、夜勤帯での突発的な出来事に慌てる自分の心理状態も描写されていますが、介護する者誰もが経験する出来事ではないでしょうか。

このような日々の関わりの中で、入居者の「ありがとう」の一言が介護者を元気づけ、介護という仕事へのやりがいを感じていくことになるのだと思います。

そして「ありがとう」という一言に心温まる、このような日々の関わりが大切なのだと思います。

優
秀
賞

「最後の誕生会」

デイサービス輝の杜

岩崎 茂 様

54歳と若いこともあって、「俺がこんなところに来て良いのかな？」と何度もおっしゃっていました。末期の大腸癌ということは、十分に理解されているようでした。（奥様からは余命半年と伺っていました。）

ただ、その表情からは死の恐怖など感じさせず、笑顔でスタッフに接して下さいました。特に利用されているお客様に対して「元気で良いね。うらやましいよ。」と話しかけられていました。

余命のことは、話をしたことにはないですが、その語り口から理解されているようでした。デイサービスの参加の理由は自宅で入浴ができずに困っているとのこと。1年ぶりに入浴されその時の笑顔は今でも忘れられません。実際の利用は結果からいうと2回のみでした。朝、〇様から連絡があり「ごめん。今日は行けないや。」と寂しそうに電話がかかってくるのが続きました。

そんな日を1カ月くらい続けた日にスタッフ様が〇様の誕生日が1週間後と気づきました。何かお祝いしたいとスタッフから申し出がありました。デイサービスのスタッフと話し合いを行い、サプライズを決心することにしました。奥様と連絡をとり、デイサービスでケーキを買って自宅に訪問しました。

涙を流され喜ばれました。

目をつぶりしばらくの沈黙の後、ケーキのろうそくの火は消されました。スタッフも涙を流してお祝いさせて頂きました。

その一週間後に〇様は旅立たれました。

この一件で、自分たちと仕事の幅の広さと最後に関われる重要な仕事と再認識しました。



▽講評△

「最後の誕生日会」には、50代という若い年代の介護課題や末期がん等の課題、看取りの課題などさまざまな介護課題を読み取ることができました。しかし、これらの課題を背景としつつ、一人ひとりの利用者への関心や配慮、関係性といった介護の基本的な姿勢も背景として感じ取ることができました。現象として見える誕生日のサプライズというトピックスだけで評価することなく、介護という本から、人々の幸せを追求する福祉という森を見ていただければ幸いです。

佳作

「ひとり暮らしができるよう
介護サービスをつなげて下さり
ありがとうございます」

感動介護を行った職員

蜷川 俊雄様

逗子市池子デイサービスセンター

吉田聡紀さん

私は87歳の男性で、1人で生活をしています。

昨年3月に入院して4月18日に退院致しました。

入院中は看護師の付添で歩くのがやっと！200m位の歩行が出来る様になり自宅に戻りました。

ケアマネジャーさんが介護計画をたてて下さり、

ヘルパーさんの訪問介護で掃除・洗濯物を干してもらい、デイサービスセンターで週2回お世話になっています。デイサービスに行くのが楽しみです。介護師さんが、良くして下さいるのでいつも感謝しワクワクしています。職員さんの動きにムダがなく、身体を悪くしないか、心配にもなりますが、目が合う

と満面の笑顔で、あいさつして下さいます。

体操・歌唱（大きな声で歌う）クイズ・入浴をし、お昼を食べ、食後のコーヒーが楽しみで食事もおいしいです。レクレーション・図工作製などで遊ぶいます。メンバーがそろった時麻雀ができてワイワイと楽しく感じます。

いつもよく働く皆さんにありがとうございます！

自分の身体が動けるのも皆さんとのリハビリ体操のおかげです。これからも頑張つて通います宜しくお願い！



佳作

「父を看取って」

浅野 恵美様

感動介護を行った事業所

みひらくクリニック

目立った原因もなく、徐々に嚥下機能が低下して
いた79歳の父が突然の血痰で受診したのが、2013年
7月1日でした。

受診に同行した長姉から、末期の食道がんで転移
も広がり余命3ヶ月と診断されたと連絡が入りま
した。

治療方針を決めていきましようとなりました。

最後の時を短くても安心して穏やかに過ごすこと
を一番にと、特養でケアマネージャーをしている長
姉、他県に住む次女、施設で介護士として働いてい
る三女の私、母の4人で相談して娘3人が交代で
泊り込み、自宅で看取りをすると決めました。

幸いなことにかかりつけの医師が、在宅での看取
りを行っており、担当のケアマネージャーさんに看
取りチームを組んでいただき、退院の当日からのス
タートとなりました。

入浴を希望すればすぐに手配をしていただき、訪
問看護で排泄コントロールや痛みへの緩和ケアなど、
きめ細やかな対応をしていただきました。

娘2人が介護職でも、在宅は未経験。

心配もありましたが、不安や希望をしっかりと受
け止めていただき、悔いのない看取りを行うことが
出来ました。

最後はしっかりと口調で、長姉に母のことを頼
み、退院して10日目の夜。

誰にも気づかれることなく眠るように父は旅立ち
ました。

父の最期は娘や親族が集まり、孫に囲まれてにぎ
やかな毎日でした。

安心して穏やかに旅立ちが出来たことを、看取りチームのスタッフ一同様に感謝しています。

佳作

「幸せな最期を迎えた父」

金子 育世様

感動介護を行った事業所

地域密着型特別養護老人ホーム せせらぎ

「守弘さん、お帰りなさい。」と特養『せせらぎ』の職員さんたち。

「おう。」目を細めた笑顔での応答。

久々に見た父の輝くような笑顔でした。

父の晩年は、誤嚥による間質性肺炎での入退院の繰り返し。毎年春先、恒例行事のように入院し、完治することはなく、少し良くなると退院。医者からは「高齢なので、いつ亡くなってもおかしくない状態。」と言われ続けました。

しかし、病院から特養『せせらぎ』に戻ってくる

度に病院にいる時よりも元気になり、歩くことができないうと医者に言われたのに、戻ると、不思議なことになり、手を借りてトイレまでの数歩でも歩けるようになっていました。

亡くなる5か月前に入院した時は、「『せせらぎ』に戻りたいなら、頑張ろう！」と励ますと、認知症の父も、帰りたい一心で、辛い治療に耐えています。そして、退院が決まると、本当にうれしそうでした。

最後の数か月は坂道を転がるように病状は悪化し、流動食しか取れない状態になっていきました。しかし職員の方々細かな心遣いにより、静かに余生を送ることができました。その間、『せせらぎ』の職員や担当医の先生と家族とで、何回となく、父の最期を看取ることについて話しあいが持たれました。

そして、その時は思ったより早くやって来ました。父は苦しむことなく安らかに91才の長寿を全うし

ました。

早朝に亡くなったので、担当医が駆けつけるまで、父に寄り添っている、入れ替り立ち替り、職員の方が弔いにやって来て、皆、一様に泣いてくださり、別れを悲しんでくださいました。

途中、廊下に出て、茫然と座っていたら、清掃の年配の女性の方が、「守弘さんは穏やかな方でしたね」と声をかけてくださいました。

こんなにも大勢の職員の方々に愛されていた父は、何と幸せだったのだろう、だから病院から退院し『せせらぎ』の玄関に入る時、最高の笑顔になったのだろうと思いました。

父の遺体を葬儀社の方が運び出す時も玄関前に多勢の職員がお見送りに出てくださいました。葬儀社の方によると施設によっては、死んだことを隠して運び出すため、白い布で見えないように隠したり、その人の死がなかったような扱いをする所もあると

か。

しかし、父は幸せなことに、人としての死を悼んでもらい、名残り惜しまれて見送っていただきました。家族としては“有難く”心の中で手をあわせてしまいました。

最期に老衰で力尽きる、その瞬間に、父はきっと『せせらぎ』の全職員に「ありがとうございまして。」とお礼を述べて旅立ったのだと思います。

佳作 「入歯紛失」

大矢 雅子様

感動介護を行った職員

村岡ケアステーション 別府 節子さん

母が100才の時でした。毎月藤沢市の村岡ケア

ステーションにショートステイでお世話になっていました。姉の家がすぐ近くで毎日面会に行ってくれるのでその間、私は母の介護を忘れ息抜きをしていました。

ある日夕食時に姉が行くと母の上の入歯が無くもごもごと食事をしているのでびっくり！すぐに施設の方と捜したが見つからなかったと姉から連絡がありました。入歯はメガネ等と違い作り直すのは大変です。翌朝1番で施設に行き姉と捜すつもりでおいりました。

施設では翌朝がゴミの収集日だったとの事、仕事が終わってから夜に担当の別府様と男性職員の2人で残業し、山の様なゴミ袋を1つ1つ開き捜して下さったとの事。1時間後ティッシュに包まれた入歯を見つけて下さり8時半頃「ありました！」と連絡を頂きました。その時のうれしき、感謝の気持は一生忘れる事はありません。

母は今年103才になりました。お陰様で自分で食事をし、歩行器を使いながら歩き元気に暮しています。

介護の方々に助けて頂いて、本人も家族もおだやかな気持で過ごせる事を感謝しております。

佳作

「思いやりの心は太陽と同じ」
匿名希望

感動介護を行った事業所

湖ケアセンター

この介護施設へ入所して7年たちました。夫は介護認定後からデイサービスを受けるようになりました。又最初、嫌々で参加のカラオケを職員さんらにほめられ、すつかりのめり込みました。私は入浴、掃除のサービスを受け読書や作文を楽しむ事にしま

した。「身障の身になった息子に付添い、永年の夢を押えて来ましたから」時々、新聞へ掲載されて大変嬉しかったものです。夫は昨年後半と今年の初めにケアマネさんの案で短期入所しました。

私が見学に行った時の事です。ベットから車椅子へ乗り移り器用に爪先で、フロアーへ移動しました。名札の貼ったテーブルへ着くと、職員さんがトロミの入った器と細微粒のサラサラした黒い薬を持って来られました。夫の目の前で練られ匙ですくわれるのを、待ちかまえる様に口をあける夫にびっくりしました。ひな鳥が親から餌をもらう姿が脳裏をかすめました。今迄黒い食間薬を飲んでもらうに苦慮しましたから職員さんの手捌きに感心しました。夫の机や椅子のある床はいつの間にか黒づみ、拭いても擦っても、きれいになりませんでした。職員さんの暖かい心配りの条件反射のあり様が、私を驚ろかし、知恵と反省の種をもらいました。思いやりの心は太

陽と同じですね。どんな人へも平等に照らし、豊かさを芽生んでくれます。介護士の皆様の健康を心から願ってやみません。夫は90歳の誕生日から約半年後に亡くなりました。腎不全とアルツハイマー病（介護3でした）ちなみに私は頸椎と脊髄の変形で（介護2）です。夫の遺品にあったメモに川中美幸のうたう歌「逢えてよかった」と「あなたひとすじ」へ赤線を引き、妻に感謝のうただとあり、無口な夫の心情をはじめて知った思いで涙です。夫に侘びました「ごめんなさい、そしてありがとう」と。



佳作

「或る日の出来事」

匿名希望

感動介護を行った事業所

サロンテイリフレ大庭

岩盤浴の方から「何をするんだ。」と言う怒声がリハビリ場に響き渡り、場内の人は一斉に声のするほうを見た。静まり返り、動くものはなかった。岩盤浴の前にA氏とA氏の腕まで自分の両腕を差し入れ、下から支えるいつもの訓練士B氏の二人が向かい合い直立していたのだ。すると近くにいた訓練士Cさんが「さあ、さあ、Aさん。ゆっくりと隣の席に座りましょう。よろしいですか。」と念をおし手をとって代わった。啞然として立ち竦んでいたB氏は、Aさんに会釈をして何事もなかったかのように次の仕事に移った。唯それだけの話である。B氏は評判がよい。年寄り扱いをせず誉めて下さる。それ

が励みになると皆さんが言う。「親切で優しい人が罵倒された。報われない。やり甲斐のなさにB氏の心は折れないか。」私は心配した。所長のDさんは場内の隅で事務処理や、電話を受け乍ら、目配り気配りを怠らない方なので後日私は所長に何故あのようなアクシデントが起こったのかと尋ねた。所長は「Aさんは発生困難な程の重篤を乗り越えて腹圧をかけると大声になるのです。あの日はご気分が悪かったのでしょうか。どなたにもそういう日はありますよね。自分との戦いの苛立ちもあるでしょう。こちらに見える方はお年を召して病を背負っても努力をなさる意志の強い方々です。その方に添って手助をする。それが介護です。大丈夫、大丈夫です。スタッフは皆心得ています。」ここに登場した四人の方はそれぞれ真剣に生きているのだ。責任をもって介護職につく人々の尊さを初めて知った九十才であった。

佳作

「介護予防サロンデイ岸谷に入会」

藤田 芙美子様

感動介護を行った事業所

サロンデイ岸谷

サロンデイの皆さまありがとうございます

- ①雨も風も熱中の日も送迎され感謝一ぱい
- ②玄関でサロンデイのお迎えを待つときめく心
- ③シートベルトしつかり閉めて程よき温度
- ④下車すれば笑顔やさしき介護職員さん等に迎えられる
- ⑤おはようございます仲間と交わす笑顔の挨拶
- ⑥女性スタッフさんの運んで下さるおしぼりとお茶
- ⑦一人ずつに体調を聞いて下さるイケ面体操指導者
- ⑧女性スタッフ様達、何でも聴いて下さり心のケアまでありがとうございます

⑨もも上げ、継ぎ足、大股歩き、片足立ち等々付きそつて指導下さり感謝してます

⑩マシントレーニング常に付いていて数をかぞえて どうでしたか？と真剣な顔の女性介護師さんに感謝

⑪その度に血圧はかり、コップのお水とてもおいしい

⑫輪に坐り他愛なきこと仲間雑談、自宅にいればしゃべる人なし

⑬パ、タ、カ、ラ、や早口言葉の嚙下体操そして楽しいティータイム

⑭日本茶、紅茶、昆布茶コーヒーと好みの飲物きいてくれます

⑮お別れの時は近づくお名残惜しや皆で頂くお入っつは最高！

⑯整理体操皆で輪になり脳活性トレーニング

⑰又来週と深いお辞儀のスタッフ様に見送られる

⑱筋力も体力もつき心晴々輝いた日です

⑲今日と言う日、他の日と違う爽快感

東京在住の息子一家、神奈川区に住む娘一家、孫達も学校クラブ活動と皆いそがしく元気に暮らしています。たまに会う一族集合の時は明るく元気な私でいたいのでサロンドイの皆さまのお世話で心身共に明朗でいられます。今の世の介護文化の時代でしょうか。

藤田 芙美子



佳作

「在宅医療がくれた日々」

志田 靖子様

感動介護を行った事業所

栄小磯診療所

私は肝細胞がんになってしまった夫の介護を2ヶ月ほどしてきました。夫はもう天国に旅立ってしまいましたが、この2ヶ月間、夫の介護を通して本当に多くの方々に支えられているということを実感する事が出来ました。

生前夫は入院前に介護認定を受ける予定でしたが、急遽入院することになってしまい自宅のある横浜市から離れた、以前からお世話になっていた東京の病院に入院が決まりました。こうなってしまうのでは介護認定も遅れてしまうだろうと半ば諦めていたのですが、なんと栄区役所の方が東京の病院まで出張し

てくださり、そこで夫の診断をしてくださったので
す。まさか隣の県の病院にまで来てくださるとは夢
にも思っていなかったので、驚くと同時にとてもあ
りがたく感じました。

退院して在宅医療に移行した後も、ベッドの搬入
や毎日の診療など、ケアプラザ職員さんなどの助け
があったため、特に困ったことはありませんでした。
またこの頃から診療所のドクターや看護師さん、ケ
アマネージャーの方々がこれからの医療方針を話し
てくださったり、私や夫がしつかり納得するまでわ
かりやすく説明してくれたりなど、とても丁寧に対
応してくださいました。

いよいよ在宅医療が始まると、ドクターや看護師
さんたちのありがたさがより一層身に沁みるようにな
りました。ドクターはいつも診察が終わると、夫
の体に何気なくタッチし「元気でね」と必らず声を
かけて帰られていきました。また、看護師さんは夫

と何気ない会話なども楽しそうにお話していた姿を
鮮明に覚えています。また、夫が腰の痛みを訴えた
とき、ケアマネージャーの方がすぐに新しいマットを
手配してください、介護に携わる方々の連携プレー
にただただ感動させられ、職業意識の高さに尊敬の
念を抱きました。夫はよく病床で、自分は多くの
人々に支えられて本当に幸せだと言っており、感謝
の日々を過ごしておりました。妻としては、それが
一番嬉しいことでした。辛かったであろう闘病生活
が色々な方々に支えられ、少しでも夫にとつて温か
いものになつていたのなら、本当に救われる思いが
します。最期、夫は家族たちに看取られながら穏や
かに息を引き取りました。本当に穏やかで、幸せそ
うな最期でした。このような旅立ちを迎えられたの
も夫のことを心から考えてくださり、最期まで支え
てくれた方々一人ひとりのおかげだと本当に感じて
います。

夫が倒れたときはどうなるかわからずに不安だった在宅医療制度ですが、利用させていただいて、本当に良い制度だと強く思いました。在宅医療に関わる方々一人ひとりの温かさに触れることもでき、夫に良い思いをさせてあげられたのではないかと思います。本当にありがとうございます。

佳作

「まあ人生こんなもん」

奈良谷 シナ 様

感動介護を行った事業所

社会福祉法人敬愛会

あの頃はああ言えばじょうゆうだったのに今はワルツじゃないアルツハイマー 情けなや何言つてもあつち向いてホイの状態ポーっとしてる時多々あり現在へん身180度変り良く言えば2才位のいたずらっ子または可愛いお子様になってきました。

長男45才は昔の頑こおやじはどこへ行ったのやら可愛いくなったいや本当に可愛いよ。と言って良く面倒見てくれます。

それには介護施設の大きな心、やさしい心にささえられて楽しんで来たのかと思うと感謝感謝 行き初めはあんな子供のやる様な所にオレを行かせるんだと言ったのに今は施設に行くのを喜んで行きますので家族全員安心してゆつくりできます。施設の皆様色々おつかれ様と同時に有りがとうございます。

世間は大変ですわって良く言われますが、私個人としてはやるだけやってホトトギス

現在私74歳になりますますあと人生10年か15年

私 7 (しょうがない) 対 3 (大変)

本人 7 (ボロボロ) 対 3 (しっかりしてる)

っていう状態余りしんどくにならぬ様頑張りたい
と思います。 今後も皆様のお力を借りながら行き
ますのでどうか宜しくお願い致します。

住 作 「私の宝物」

三澤 キミニ子 様

感動介護を行った事業所

デイサービスセンターグッデイ

デイに行くのが一寸いやになり始めていた時、二
週間位入院してしまいました。

退院してから一ヶ月位家にいました。

その間デイの方から何度か「大丈夫待っているか
ら」と云うような電話をいただき、こんな私でも心
配してくれているんだと思ひ又行ってみようと思ひ
行く事にしました。

玄関に入った時いつも自分が座っている場所に折
り鶴が一羽おいてありました。

何だろうと思ひ手に取ってみると手紙が入ってい
て「退院おめでとう。デイに来るのを皆で待ってた
の」と書いてありました。

その時なんだかわけもなく涙が込み上げてトイレ
に駆け込み一時泣いてしまいました。

その後何事もなかった様にふるまってくれました。
みななにもなかった様に楽しくその日一日をすこ
してきました。

今でもその折り鶴は私の部屋の棚の上に飾ってあ
ります。

私の宝物です。



佳作 「看取りの介護」

山口 容子様

感動介護を行った事業所

ダムメデイカルケアサービスつきみ野
古屋澄子さん、野田ユキ子さん、山田佳史さん、
石井由美子さん、日暮学さん、後藤和彦さん

60歳の時に、父がくも膜下出血で倒れて18年間私達家族にとっても、父にとっても充実した年月だった。急性胆肝炎、肺炎、右脚切断など命の危機に面しながらもその度に奇跡が起きて在宅で要介護度5の父が18年間過ごすことが出来たことを本当に感謝している。

訪問看護、訪問入浴多くの人達の仕事ぶりに支えられてきた。中でも一番お世話になったのはヘルパーさん。父と共に家族と共に、共に寄り添い時を共にしたかけがえのない方達だ。昨年11月11日にか

ながわ感動介護大賞の式に参列。その翌週に入院。敗血症ショック、DIC、心不全、縦隔リンパ節腫大、前立腺癌、臨床診断名として抱えながら12月8日に父は息をひきとった。驚くほどの様々な病を抱えながらも最期まで安らかにすごし、そして力強く病と戦ってこられたのは父自身と家族の想い、そしてヘルパーさん達の想いが集結したからこそ思っている。

最期のエンジェルケアは家族とヘルパーさん達で行った。髪を整え、清拭をし、リップクリームをぬり、丁寧に丁寧に、そしてありがとうの気持ちをこめて温かなタオルで顔をぬぐった。父の表情は安らかでそして気高く、とぎすまされ清らかだった。闘病していた方のお顔には見えないと多くの方に言われた。尊い最期だった。

第1回かながわ感動介護大賞に父と優秀賞をいただき、参列して以来毎年この式典を楽しみにしてい

た父に代わって主催している黒岩県知事、他皆様に
もありがとうを伝えたい。ヘルパーさんだけでなく、
介護を受けている父、家族にとっても一年の楽しみ
であった。「介護」というものを通してヘルパー
さん達を通して、色々な事の「学び」をさせてい
ただいた。介護を始めた頃最期をヘルパーさん達と
共にすることは想像もしていなかったが、看取りの
介護はとてすばらしく尊い尊いものでした。皆様
本当にありがとうございました。



佳作

「ある朝！」

訪問介護事業所 職員

関 希子様

私が入社と同時に担当させていただくことになっ
た夫妻。

奥様に認知症があり、何とか一緒に調理等をヘル
パーさんと一緒にやれたらとのご家族のご希望から
サービスが開始。

ヘルパーの声掛けにより、包丁も握ったり、洗い
物をしたりと台所にも立つことができ、昔の姿もチ
ラホラ。

それでも認知症は進んでいく。

昼夜逆転も始まり、昼はヘルパーが来るまで眠っ
ている。

起きるとオムツもシートもびしょびしょで、ご主
人も疲れ果てている。

そこでご家族やケアマネと相談をし、毎朝8時に訪問し、起こし、着替え、朝食へとサービスの追加を行った。

毎日毎日同じ時間に起こすサービスを続けて1ヶ月、いつもの様に訪問し、仕度をしていると「おはよう！」と目覚めた本人が、声をかけながら近寄ってきた。

そう、この日を境に起きて待つていてくれる日が少しずつ始まった。

佳作

「世代をつなげる大切な仕事」

若武者ケア横須賀事業所

田中 あゆみ様

92歳女性のご利用者様で、私が担当して2ヶ月が経ちました。

関わっていくうちに、経験された体験をいろいろ話していただけるようになりました。

青春時代を戦争の中過ごされ、その体験などもたくさん聞かせていただきました。

いつも足をひきずりながらゆっくりお部屋の中を歩いている姿を見て、私も頑張らなきゃと思います。

ある日のサービス終わり玄関先で見送ってくださいました際、目に涙を浮かべて寂しそうにされていたのがとても印象的です。

こんな私でも求められていると感じることができました。



佳作

「やさしい時間」

介護老人保健施設 職員

服部 美津代 様

○さんは、息子さんと二人暮らし。もともとの性格に認知症が加わり、喧嘩の毎日。デイに来てても帰宅願望が強く、施設の玄関前で大声をあげていた○さんは有名人。息子さんの入院をきっかけに入所し、昼夜大声で「うち帰る」の連発。退院後息子さんもデイに通い始め、久々の面会時、「おまえ足ねえじやねえか。どうすんだよう。」と、大きな声で何度も心配していました。それからは、面会の度、足の心配をし、「一緒に帰る」が始まり、息子さんがイライラしてくると面会終了。そんな○さんが脳梗塞を発症。医師と話し合い、ご家族は悩んだ末、病院へ行かず施設で看取る決断。あんなにおしゃべりだ

った○さんは、訴えるような悲しい目で、話すことも、食べることも、立つこともできなくなりました。辛い決断をされたご家族は、頻回に面会して声をかけ、父のことはわかるみたいで、笑顔になるとお孫さん。少しでも口から飲みこめるようにと、言語聴覚士は毎日口腔ケアとリハビリ。介護と看護の職員も毎日声かけしながら介護を続けました。水分点滴だけでやせ細っていく○さんに何かできることはないかと必死に悩んだ栄養士。体の負担になっても、大好きなお風呂に入れてあげたいと、リスク承知で入浴。少しずつ枯れるように、二カ月後○さんは、旅立っていききました。後日お孫さんより「喧嘩の絶えなかつた祖母と父が、ここで過ごせたおかげで、最期はあんなにやさしい時間をもてて感謝しています。」と。

「一番大切なものは？」

相模原市藤野高齢者支援センター

武井 智子様

私が担当するご利用者〇さん、その生き方に大変教えられる事がある。決して万全であるとは言えない体で一人暮らしの毎日を一生懸命に頑張っている。痛い足を引きずりながら愚痴の一つも出るかと思いきや、その会話の中には常に感謝の気持ちが現れている。

東日本大震災から5年、津波というかつて目にしたことのないような大きな災害に見舞われた。被害にあった人達に思いを馳せる時、私達は普段通りに生活できる事がどんなに素晴らしい事か、考えたことがあっただろうか？蛇口をひねれば当たり前に水が出る有り難さを実感しただろうか？

〇さんは夜眠る時、今日も一日何不自由なく過ごさせてもらったことに対して、「ありがとう」の気

持ちを込めて手を合わせるといふ。一人暮らしを気遣う子ども達に対しては心配を掛けまいと携帯にて連絡をとる。耳の不自由な息子さんとメール交換をしたいからとスマホにも挑戦。お孫さんには夜空の星を眺めては「きれいだよ、見てごらん。」とメールを送る時もあるとか。優しいおばあちゃんの一面も覗かせる。すべての事に対して謙虚で前向きな姿勢には本当に見習うべきものがある。挑戦することに対して、もう年だからなどと自分をごまかすような事は決してしない。常に感謝の気持ちを忘れず、幸せな毎日を送れていると言いつける。幸せとは自分の心が決めるものであると、まさに〇さんの人柄から学ぶ事が出来る。これからの私の人生においても一番大切な物は何なのか考えさせられる良いお手本となっている。

佳作

「ご家族の思いに応えたい」

道志会居宅介護支援事業所

山口 武志様

「子供たちが集まるので外泊をさせてください」とご主人より連絡を受けました。

この方は足に難病があり、立つのに介助が必要のため、外泊はとても心配でした。

帰園され様子を伺ったところ「足に全く力が入らなく、家族だけでは介助が難しいので外泊は控えた方がいいのでしょうか」とご家族は残念でならない様子でした。

その時の様子をケアマネージャー、介護スタッフ等に話し合いを持ち、計画の見直しをしました。

もう一度ご家族と一緒に外泊して頂き、ご家族とご本人の楽しい思い出作りに掛けてみる事にしました。

ただ、足は難病の影響により今後筋力が付く

は難しいので、逆に手の力を強化し、手の力で立つことができるのではないかと、リハビリを開始しました。

練習は私と介護スタッフとで毎日行い、手の力を中心に使った練習はバランスを崩しやすく、苦痛を伴うことで時にはスタッフと意見の違いで衝突することもありました。約10カ月試行錯誤した結果、難しかった立ち上がりはゆっくりながらも行えるようになりました。

この成果をご家族に伝えたところ、とても喜んで頂き、前回は1泊だった外泊は、今回の年末年始にご自宅で6日間過ごされることができました。ご本人からは「子供たちや孫たちと一緒に新年を迎えることができ、良い年末年始になりました」と聞いた時私をはじめ介護スタッフも「バンザイ」と叫びた気持ちでした。ご本人とご家族の嬉しそうな姿を見て偉業達成の喜びを感じました。

いちばん辛かったご本人の努力に感謝、サポートしてくれた介護スタッフの協力に感謝、そしてご家族の思いがあったからこそ実現出来たと実感し、今後もご利用者、ご家族によりそい、思い出作りのサポートができるように進めて行く事を心に強く感じた出来ごとでした。



佳作

『おめでとう』が言いたいのに

介護老人保健施設あおばの里

北野 枝里香 様

当施設入所の60歳女性の利用者様。若くして病気がかかり、ご家族様とはめったに会えない生活を送られていた。脳の病気の為失語症もあり、言葉が出てこず、うまく訴えができず歯痒い状態でした。スタッフは経験上察する事が出来ませんが、発語のリハビリにならないと思い、オウム返しで発語をするリハビリを実施しましたが発語が見られませんでした。ご本人様からの訴えでよく見られる内容を絵にしたボードを言語聴覚士に作成してもらい、スタッフは訴えがあった際、それを使用するようにしました。実施し始めると、指さしと同時に発語も見られる様になってきました。そんな矢先に、娘さんの結婚式に列席することになりました。普段なかなか会えない娘さんの門出に、自分の言葉で「おめでとう」と祝福したい思いや母としての気持ちの方が更に後押し

したのか、発語の練習に対し、積極的になりました。結婚式には、式用の衣装に着替えていかれました。後日、「結婚式はどうでしたか？」と伺うと「「おめでどう」って言ってきたよ。よかったよ」と短文の返事が返ってきた。今までは、単語や名称等を思い出すことすら大変だったご本人様が、短文ながら会話が成り立つ様になっていました。スタッフからもボードのおかげか、結婚式に出たいと言う、母親としての強い思いからか、ご本人様の言語機能に何かしらの強いきっかけになり、言葉が出る様になったのではないのでしょうか。



▽第5回かながわ感動介護大賞 応募作品の総評△

第5回かながわ感動介護大賞には、本人及び家族から21件、職員から22件、合計43件の応募をいただきました。本人及び家族からの作品に描かれた生活の様子を想像し、職員の応募作品からは介護に対する考え方や日々の仕事の様子を想像しながら読ませていただきました。選考委員会を代表してご応募いただいた皆様に、改めてお礼を申し上げます。

作品に現れる介護が必要となった原因には、認知症や脳血管疾患による身体障害、骨折による生活機能の低下等が読み取れました。そして、エピソードの内容からは、看取り介護に関する内容や食事・嚥下の課題、認知症に伴う様々な症状への対応等も多く見られています。一方、比較的元気な高齢者の方の生活の楽しみ方やお孫さんとのやり取りもあり、ほほえましく読ませていただきました。また、介護保険制度では第2号被保険者に該当する比較的若い年齢にある方のエピソードもありました。そして、すべての作品から、今を一生懸命に生きる人々の姿を感じ取ることができました。

現在、介護現場では看取り介護への対応が課題となっています。人間の命には限りがあります。そして、「どう死ぬかは、どう生きるかを考えること」ともいわれています。

応募作品すべてを掲載することはできませんでしたが、この作品集をこー読いただき、高齢期を生きる人々とその家族の思いや、介護する職員の思いを感じ取っていただければ幸いです。そして、かながわ感動介護大賞が、日本の福祉文化の一つとして定着していくことを願っています。

かながわ感動介護大賞表彰選考会座長 峯尾 武巳

○かながわ感動介護大賞表彰選考会委員名簿 (◎…座長)

東海大学 准教授

東 奈美

特定非営利活動法人

神奈川県介護支援専門員協会 副理事長 石田 貢一

神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会 会長 伊東 一郎

公益社団法人 神奈川県社会福祉士会

福祉サービス第三者評価事業運営委員会 副委員長

高島さち子

田園調布学園大学 講師

増田いづみ

神奈川県立保健福祉大学 教授

◎峯尾 武巳

○かながわ感動介護大賞実行委員会 (構成団体)

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会

一般社団法人神奈川県老人保健施設協会

神奈川県特定施設等連絡協議会

公益社団法人横浜市福祉事業経営者会

川崎市老人福祉施設事業協会

公益社団法人神奈川県社会福祉士会

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

特定非営利活動法人神奈川県介護支援専門員協会

神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会

公益社団法人かながわ福祉サービス振興会

公益財団法人神奈川県老人クラブ連合会

神奈川県立保健福祉大学

株式会社テレビ神奈川

株式会社神奈川新聞社

横浜エフエム放送株式会社

神奈川県保健福祉局

□かながわ感動介護大賞協賛法人（50音順）
一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会
一般社団法人神奈川県老人保健施設協会
一般社団法人横浜市保土ヶ谷区医師会 保土ヶ谷区医師会訪問看護ステーション
医療法人社団清光会
医療法人社団相和会 澁野辺総合病院
神奈川福祉事業協会
株式会社アオバメディカル あおば福祉サービス
株式会社いわしや西方医科器械
株式会社エー・エス・ブレインズ
株式会社APCマネジメント
株式会社ケアバンク
株式会社サロンデイ
株式会社優進 ケアサポートまごころ
川崎市老人福祉施設事業協会
公益財団法人神奈川県老人クラブ連合会
公益社団法人かながわ福祉サービス振興会
公益社団法人鎌倉市医師会
公益社団法人横浜市福祉事業経営者会
社会福祉法人厚木慈光会 睦合ホームやすらぎ・睦合ホームすこやか
社会福祉法人育生会
社会福祉法人一石会
社会福祉法人一燈会
社会福祉法人永寿会 特別養護老人ホームかりん
社会福祉法人恩賜財団神奈川県同胞援護会
社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会
社会福祉法人神奈川県社会福祉事業団
社会福祉法人鎌倉静養館

社会福祉法人共生会 藤沢養護老人ホーム・藤沢特別養護老人ホーム
社会福祉法人恵愛会 介護老人保健施設四季の森
社会福祉法人敬心会 特別養護老人ホーム栗原ホーム
社会福祉法人幸済会 特別養護老人ホームかわしまホーム
社会福祉法人三栄会 特別養護老人ホームベルホーム
社会福祉法人湘南福祉協会
社会福祉法人清琉会
社会福祉法人積善会 ルビーホーム
社会福祉法人竹沢積慈会 ボーナビール二本松ケアセンター
社会福祉法人たちばな福祉会 老人デイサービスセンター芙蓉の園
社会福祉法人中心会
社会福祉法人道志会 道志会老人ホーム
社会福祉法人東洋会
社会福祉法人藤嶺会 特別養護老人ホーム弥生苑
社会福祉法人百鷗 葉山清寿苑・逗子清寿苑
社会福祉法人八寿会 みどりの園
社会福祉法人ハマノ愛生会
社会福祉法人二津屋福祉会 ロゼホームつきみ野
社会福祉法人母子育成会
社会福祉法人三崎二葉会 ケアセンター南下浦羊の家
社会福祉法人大和清風会
社会福祉法人湯河原福祉会 シーサイド湯河原
社会福祉法人横浜長寿会 特別養護老人ホーム上郷苑
社会福祉法人栗山会 特別養護老人ホームやまびこ荘
東洋羽毛首都圏販売株式会社 横浜営業所
トヨタカローラ横浜株式会社
通所介護みどりや みどりケアデイサービス



一般財団法人
シニアライフ振興財団

JK 神奈川県住宅供給公社グループ



ポンジュース

株式会社えひめ飲料東京工場

福祉に・ずっと・まっすぐ



在宅介護サービス

若武者ケア

公益社団法人神奈川県介護福祉士会



ともにほほえむ

高齢者総合福祉施設



潤生園
JUN SEI EN

社会福祉法人 小田原福祉会



神奈川県済生会



社会福祉法人 きょう さい かい
神奈川県匡済会



社会福祉法人 松みどりホーム
松 緑 会

社会福祉法人セイワ
介護老人福祉施設みやうち





社会福祉法人日本医療伝道会
衣笠病院グループ



高齢者総合福祉センター

ヒューマン



城南信用金庫

愛コープ港北



人と向き合い 人に寄り添う

日総ニフティ株式会社

※協賛団体一覧及びロゴは、各協賛団体の希望する方法で掲載しています。

—ご協賛いただきありがとうございます—

随時受付中！

かながわ感動介護大賞 感動介護エピソード募集

今度はあなたの「感動」介護のエピソードを
伝えてみませんか！
応募は随時受け付けています。
職員の方の「感動」介護のエピソードも
募集しています。

ご応募お待ちしております。

※詳しくは、
県ホームページ
「かながわ感動介護大賞エピソード募集」
をご覧ください。



かながわ感動介護大賞実行委員会



神奈川県

保健福祉局福祉部高齢福祉課
〒231-8588 横浜市中区日本大通 1
電話(045)210-4846(直通)